

海外安全対策情報
(令和3年度第1四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第1四半期(令和3年4月～6月)の情勢は以下のとおり。

(1) 北部ティグライ州

令和2年11月4日に発生したティグライ州における武力衝突については、ゲリラ戦の様相を呈し始め、同州内全域において断続的な衝突が続いている。5月1日、連邦政府は、TPLFとOLF Sheeneをテロ組織として指定する決議を承認した。国防軍は、6月21日に投票日を控える「エチオピア総選挙」に伴い、ティグライ州に展開する部隊の一部を各州に展開した。TPLF/TDFは、一時的に国防軍の戦力が不足した状況に乗じて、同州内の同軍駐屯地を攻撃し、6月16日、国防軍とTPLF/TDFとの間で激しい戦闘が開始された。国防軍は、空軍を出動させ空爆実施するなど交戦するも、TPLF/TDFは次々に国防軍駐屯地を襲撃し都市の占拠を進め、6月28日、州都メケレを占拠した。同日、連邦政府は、TPLF/TDFに対して「一方的人道停戦(ティグライ州における市民の農作業を確保するため実施するものであり、耕作に適した時期の間実施)」を宣言した。

6月25日以降、アディスアババ～メケレ間の商用便が運行停止しており、同28日以降、インターネットも停止されている。

(2) 首都アディスアババ

通行人に対するひったくり、通行中の車両を停止させて気を引いた際に車載品を窃取する盗難事件、アパートや民家に対する侵入窃盗事件が頻発している。5月下旬頃から、「外国による内政干渉は必要ない」と主張するデモが外交施設を対象に実施され、「エチオピアでは外国人は歓迎されていない」と外国人がエチオピア人に襲われる事件も発生している。

(3) 地方の情勢

ア ベニシャングル・ Gumuz州

Gumuz系民族と思われる武装勢力がAmhara系民族や通過車両を無差別に襲撃する事件が多発しているほか、治安部隊との衝突により、多数の死者や避難民が生じている。1月21日、エチオピア連邦議会は、非常事態宣言をベニシャングル・Gumuz州メテケル県に適用させることを決めた

が、治安の悪化に歯止めがかかっていない。右被害を受けたアムハラ系民族は、4月23日から25日にかけて、「武装グループによる武力攻撃からアムハラ系民族を保護しなかった」と政府を非難した。現在は、同州に治安部隊及び国防軍が介入している。

イ オロミア州

西部ウェレガ地域（西ウェレガ、東ウェレガ、ケレム・ウェレガ及びホログドウル・ウェレガ）及び南部（グジ県、ボレナ県）においては、依然として武装集団による襲撃事件や治安部隊との武力衝突が頻繁に発生している。6月15日、オロミア特別警察部隊と治安部隊との統合作戦により、少なくとも95名の武装勢力を殺害した旨発表された。

なお、6月中旬頃から、ジンマ県や北シェワ県においても武装集団の活動が確認され、同集団と治安部隊との間で衝突が発生している。

ウ アファール州とソマリ州の州境一帯

アファール系民族とソマリ系民族の間で激しい衝突が長期間にわたって発生している。同所近辺は両民族の居住地が混在しており、6月の総選挙の選挙区選定が新たな火種となって衝突が激化している。

（4）第6回エチオピア総選挙

6月21日の投票日は、投票箱の窃盗・投票所の襲撃などの事件が発生するも、多数の死者が発生するような大きな事件が発生するはなかった。9月6日、残りの選挙区の投票が予定されているところ、投票日前後の治安悪化が予想される。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地における主な手口は以下のとおり。なお、外国人を狙った複数名による首絞め強盗や、歩行中の外国人を狙った窃盗事件が特に多発しているため、徒歩での外出は極力控え、特に早朝夜間は近距離であってもタクシー等を利用することが望ましい。また、車両乗車中は確実に施錠し、安全が確保できない限り降車しないこと。降車する場合は周囲の安全を確認のうえ、貴重品を確保し、隙を作らないことが重要である。

（1）強盗事件

この四半期における邦人被害はないものの、アディスアベバ市内においては引き続き強盗事件に対する警戒が必要。過去には早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首を絞められ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が多く発生している。

（2）侵入窃盗事件

アディスアベバ市内の、特に外交団や外国人の住宅（マンション含む）

への空き巣被害が増加している。塀のある戸建て住宅であっても、外壁沿いの電柱等から容易に侵入されるケースがある。マンションにおいては、複製された鍵又はマスターキー使用と思われる空き巣事件が多発している。新規に入居した場合は錠を付け替えることが望ましい。エントランスに警備員が配置されていたとしても、知人を装う等の方法により容易に侵入できる場合がある。また、夜間住人が就寝中に窓から侵入する忍び込み事件なども発生しているため、アパートの場合はできるだけ高層階を選ぶなど選定には十分な配慮が必要である。

(3) 歩行中の窃盗事件

アディスアベバ市内において、スリが横行している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕を掴む等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者の胸、ズボンのポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。

(4) 車両乗車中の窃盗事件

アディスアベバ全域において、車両運転中の外国人に対して車の不具合などを指摘して降車させ、気を引いている間に別の者が車載品を窃取する手口が増加している。また、渋滞で停車中の車両のドアやトランクを開けて携行品を窃取する等の手口が横行している。

(5) 暴行事件

5月下旬頃から、「外国による内政干渉は必要ない」と主張するデモが外交施設を対象に実施され、「エチオピアでは外交人は歓迎されていない」と、早朝出歩いていた外国人がエチオピア人に襲われる事件が発生した。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

4. テロ・爆弾事件発生状況

上記1(1)～(4)のとおり。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生事例

特になし。

7. 対日感情

新型コロナウイルス発生当初は日本人を含む外国人に対する風評被害が広がった。現在対日感情は落ち着いているものの、外国人に対し、突如罵声を浴びせるなどの事案が散見される。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

多くの日本企業関係者が新型コロナウイルスによる一時帰国から帰任し、事業を再開しているものの、ティグライ州における武力衝突以降、エチオピア各地において治安上深刻な影響が出ている。

ティグライ州においては深刻なインフラの破壊が懸念されており、経済活動が正常に戻るまでには相当な期間を要すると見られている。

当面ティグライ州はもちろんのこと、エチオピア全土における治安の推移を注視するほか、これまで以上に情報収集を徹底し、治安の急激な悪化やそれに伴うインターネット遮断などの事態に備える必要がある。